

A-49

クロマトグラフィーによる phospholipid の分析について,  
 武蔵野女大短大 倉田幸子。奥隅路子。栗原文男。馬嶋安正。

目的

先に私共はアルミナを用いたカプセルクロマトグラフィーによって phospholipid を分析する方法を報告した。

しかし nyloncelatime の被膜化に醋酸蒸気を用いるため少し危険を伴い実用上不便であるので、nyloncelatime の代りにアセテート (ディアセチルセルロース) を用いて見ようと考えた。

方法

ウエル4 中性アルミナを 90 秒水洗 10 回行った後、室温で 1 週間風乾し、これを 100°C 6 時間 X 2 加温し、そのまゝ褐色瓶に密封貯蔵した。

アセテート 600 mg を 100 ml のアセチンに溶か (溶液)、上述アルミナを入れ 5 分間振とうした後、アセチンの大部分を去り、室温に 1 週間風乾した。

試料は今回は主として白ネズミ肝臓 phospholipid を用いた。すなわち肝臓をメタノール-エーテル (3:1) で温浸出後蒸発乾固し、私共の方法 (1963 年) でシリカゲルを用いてクロマトグラフィーを行い 1% メタノール-エーテルで洗った後 4 分画としてメタノールで分取した。

上述アルミナを石油エーテルの媒介で吸着管 (径 1.0 x 23.0 cm) につぎの後、上述試料 (70 ~ 150 mg) を用い 4 塩化炭素でメタノールで展開し、ビーターに 2 ~ 5 ml ずつ分取し、5 分画 (Serine phospholipid, cephaline, inositol phospholipid, lectin sphingo myelin) に分取した。

結果 比較的良好的な分離を示した。